

令和6年11月8日

令和6年
第5回野洲市議会臨時会
決 議 書

野 洲 市 議 会

決議第 3 号

市の重要課題である野洲市民病院整備を滞らせず進めることを求める決議（案）

上記の議案を提出する。

令和 6 年 1 1 月 8 日

提出者 野洲市議会議員

賛成者 野洲市議会議員

賛成者 野洲市議会議員

賛成者 野洲市議会議員

賛成者 野洲市議会議員

賛成者 野洲市議会議員

決議第3号

市の重要課題である野洲市民病院整備を滞らせず進めることを求める決議（案）

現在の市民病院整備事業を中断等せず、原則、計画・契約の内容に則し、揺るぎなく前に進めるとともに、速やかに市民にその意思を示されるよう求める。

なお、公約に示された「市民負担の軽減」については、斯かる範疇で可能な取り組みを検証、実施されること。

以上、決議する。

令和6年11月8日

野 洲 市 議 会

令和6年11月8日

令和6年第5回野洲市議会

臨時会 決議書関係資料

野 洲 市 議 会

決議第3号 市の重要課題である野洲市民病院整備を滞らせず進めることを求める決議（案）

（提出理由）

櫻本市長の就任から1週間が経過した。初日の記者会見で、櫻本市長は、最優先課題として病院整備を掲げられ、「進めていくので安心してください」と述べられた。そこで語られたことは極めて抽象的で、選挙公報で示された「市民負担の軽減」と、当選後に述べられた「そのための再検証」の意図するところは今においても明確に示されていない。

野洲市民病院の整備については、これまで十余年に及び、まちを挙げての論議がなされてきた。ある時期には市民を分断し、紛糾したが、高齢化が急激に進む本市の状況を俯瞰した論議により、病院そのものの必要性や、担うべき医療機能といった基礎的な課題については、専門家の評価と、市民懇談会や市議会における議論を重ねて収束し、結果、中軽症の救急に対応し、回復期と維持期を担う在宅医療支援の病院を目指すことで確認されたところである。そして、最後まで市を二分して揺れ動いた「場所」についても、令和4年5月、現在の総合体育館東側市有地が提案され、令和4年12月の基本計画の成立を以って確定するに至った。現在は、本市議会が可決・承認した債務負担行為額約120億円を前提に、(株)熊谷組を代表とする共同企業体と、これも本市議会の承認を経て約116億円の請負契約が締結され、今すでに準備工事も竣工に向かって

いる。こういった現状で、多くの人が「病院はもう決まったこと」と認識されていたところに、市長選挙で櫻本市長を含む2名の候補者が、これを「争点」とされた。したがって、櫻本市長が今「再検証」と語っておられることについても、実際相当数の市民が「今さら感」と「先行きの不安」を抱いていることを確認している。

現在すでに、新病院計画が遅滞なく進捗することを前提に、多くの関係機関と様々な連携が進められている。滋賀医科大学とは、県内自治体で初となる共同研究講座の取組拡大が進められており、次年度からは病院事業の収益の中心となる整形外科及びリハビリテーション科への追加的な医師派遣も協議されていると聞いている。さらに、県内ほか複数の看護系の大学等とも、新病院を前提に新卒者の入職拡大の調整が進められているほか、リハビリスタッフについても、新病院で増床する回復期病床を前提に、次年度から採用増員で内定が行

われている。そして何より、今まで政治に翻ろうされ続けてきた市立野洲病院の職員が、新病院整備の計画どおりの進捗に期待して、患者・市民のために日々医療に専心されている。三度、関係者を翻弄することは野洲市の医療体制の崩壊をまねきかねない。

また、先日、大阪府箕面市の新市立病院整備事業において、本市と同じ基本設計デザイン・ビルドの総合評価一般競争入札に対し、応札者が1社も無かったという衝撃的な情報を得た。同病院は、病床数390床の高度急性期病院で、当市の計画とは規模や機能に相違はあるものの、ゼネコン関係者によると不調の理由はサブコンの人手不足であると言われており、ひっ迫が著しい病院建設事業の実態が如実化したところである。また、総床面35,100㎡に対する予定価格（開発、立体駐車場整備含む。税込み）は約355億円で、平米単価はついに100万円を突破ところまで高騰しているのが実態である。この事実から、予算に関しても、今、当市の整備計画を、万一中断や解消するようなこととなれば、客観的に考えて、再度病院の整備に取り組むことが不可能であることを示しているといえる。

以上のようなことを踏まえると、臨時会という場ではあるが緊急の課題として、現在の市民病院整備事業を中断等せず、原則、計画・契約の内容に則し、揺るぎなく前に進めること、そして速やかにそのことを市民に示されるよう求める必要があると考え決議に至るものである。なお、公約に示された「市民負担の軽減」について、斯かる範疇で可能な取組を検証され実施されることは、市議会としても真摯に審査し、協力していきたい考えである。

以上、決議案の提案理由とする。